

貴重書コレクションの 活用と デジタルアーカイブ

千代田図書館 企画部門の取り組み

Using Special Collections and Archives
: Chiyoda Library

千代田区立千代田図書館 河合郁子

自己紹介

河合 郁子（かわい いくこ）

2007年4月～現在

千代田区立千代田図書館

企画・システム部門 企画チーフ

【主な担当】

- ▶ ミュージアム・出版社・古書店連盟など外部機関との連携を通じた、展示やイベントの企画・実施
- ▶ 特殊なコレクションの活用促進
- ▶ ビジネスパーソン向けアウトリーチサービス（ビジネス書の出張展示）

千代田区立千代田図書館の 立地

- ▶ 千代田区は、東京23区のほぼ中央に位置
- ▶ 夜間区民(住民)＝約6万人
- ▶ 昼間区民(在勤・在学を含む)＝約82万人
- ▶ 千代田区立図書館の中央館
- ▶ 蔵書冊数＝約18万冊



千代田区立千代田図書館の 歴史

明治	20年	大日本教育会附属書籍館として 神田区一ツ橋通町の旧体操伝習所寄宿舍内に開館
明治	44年	東京市に委託され東京市立神田簡易図書館として開館 (大正2年に一橋図書館と改称)
大正	12年	関東大震災により焼失、翌年ニコライ堂敷地にバラックで開館
昭和	4年	一橋図書館から名称を駿河台図書館と改称 翌年(昭和5年)から一般公開開始
昭和	18年	市立駿河台図書館は都立となる(昭和25年から区立へ)
昭和	26年	図書館法により利用料が無料となる
昭和	30年	九段下に新館完成、千代田図書館として開館
平成	19年	区役所移転に伴い、九段第3合同庁舎9・10階に移転 4月より指定管理者による運営開始(5/7開館)

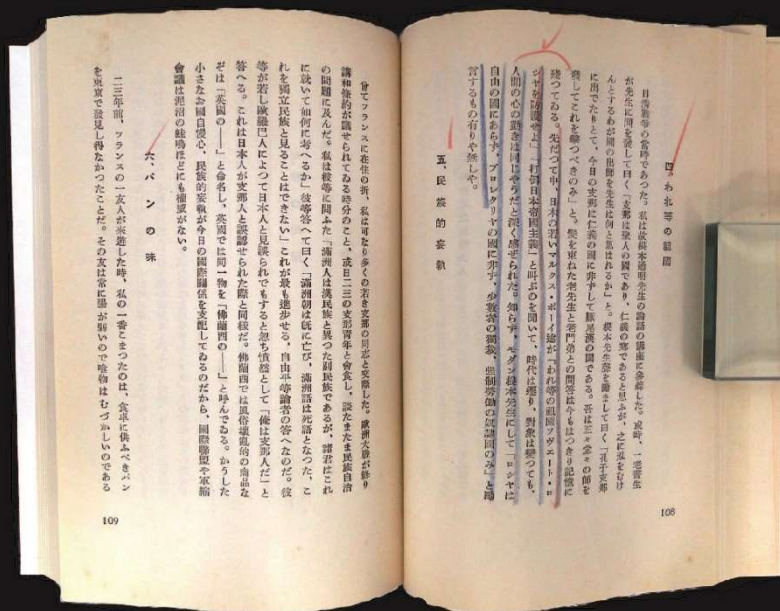
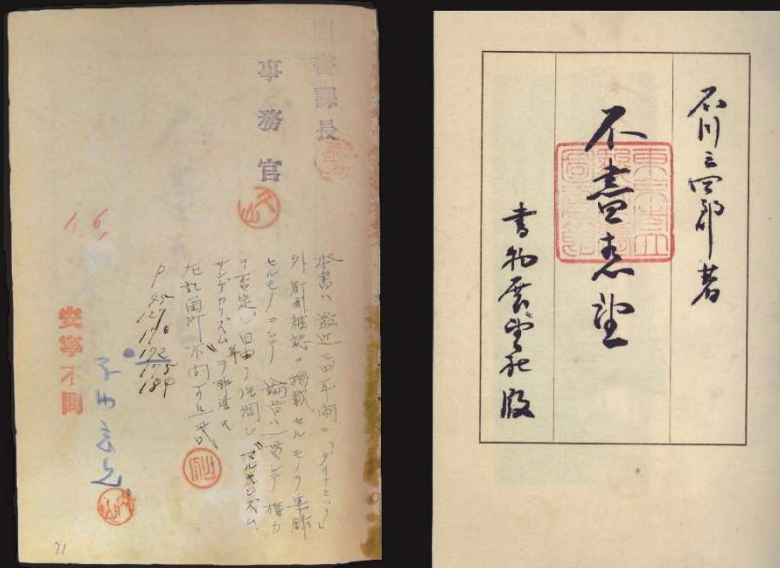
千代田図書館の 3つの特殊なコレクション

- ①内務省委託本
- ②一橋・駿河台図書館業務資料
- ③古書販売目録

千代田図書館の3つの特殊なコレクション

①内務省委託本

- ▶ 戦前に、内務省が行っていた出版物の検閲で、実際に使用された正本（発禁処分にならなかったもの）
- ▶ 検閲作業終了後に、主要な東京市立図書館に委託され、普通の図書館蔵書と同様に、利用者に提供されてきた
- ▶ 検閲官が内容をチェックするために引いた赤線・青線、出版の可否についてのコメントなどが残されている
- ▶ 検閲の実態を読み取ることができる、出版史上、貴重な資料



『不盡想望』

石川三四郎 // 著

書物展望社

1935

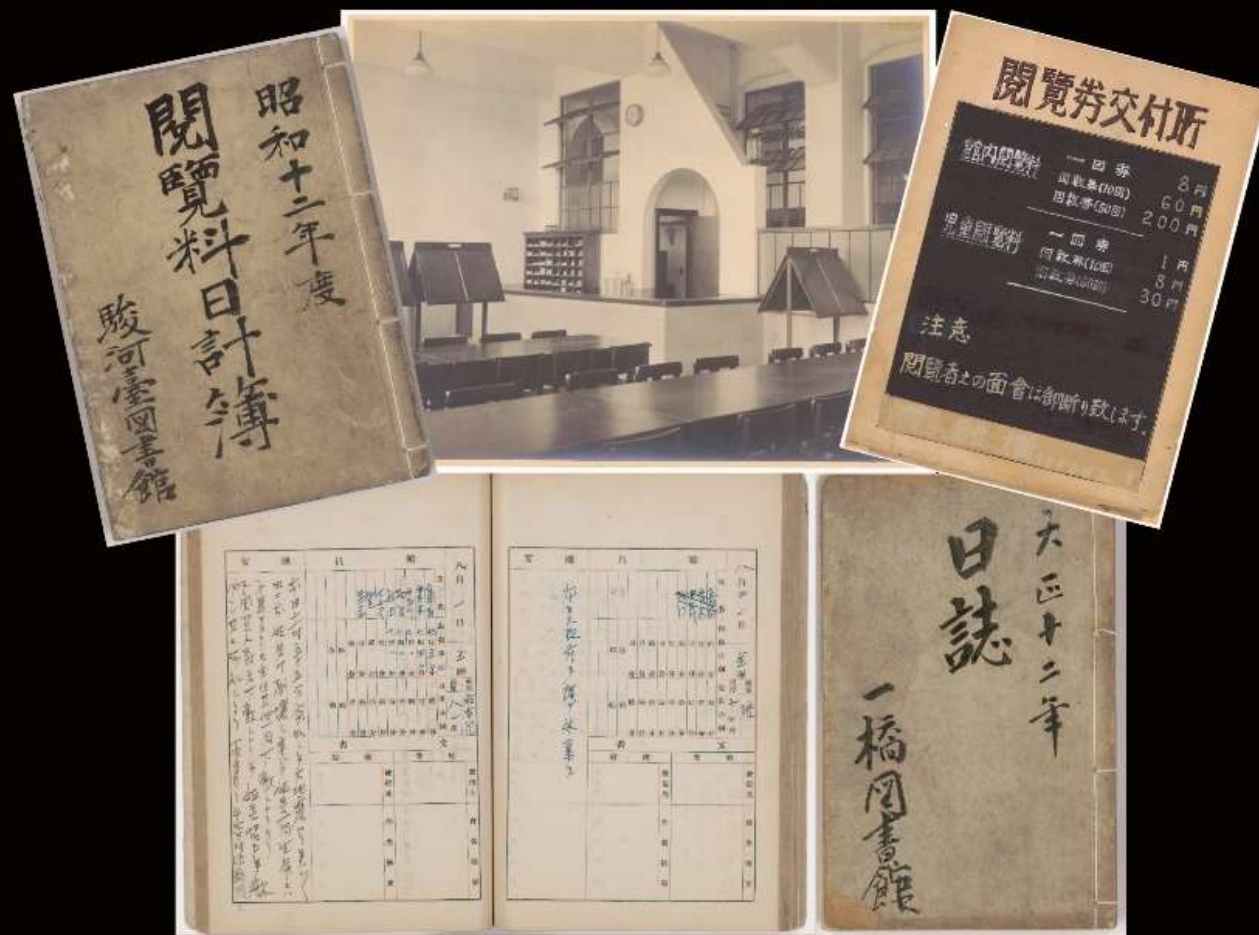
千代田図書館蔵

「内務省委託本」

千代田図書館の3つの特殊なコレクション

②一橋・駿河台図書館業務資料

- ▶ 千代田図書館の前身である東京市立一橋図書館・駿河台図書館時代の業務資料
- ▶ 日直・宿直日誌、予算差引簿、閲覧料日計簿、図書購入関係綴など、大正12年から昭和30年頃までに作成された
- ▶ 当時の図書館の様子を具体的に読み取ることができ、日本の図書館史研究および出版文化史研究において、大変重要なもの



一橋・駿河台図書館業務資料

千代田図書館の3つの特殊なコレクション

③古書販売目録

- ▶ 古書販売目録とは、古書店が通信販売を行うために発行するカタログ。もともと一時的な利用を目的とした販売カタログであるため、長期間保存されることは滅多にない
- ▶ 過去の古書販売目録からは、その時点で存在していた古書の概要や値段の変遷などを知ることができ、また発行古書店の歴史や出来事を読み取ることができる
- ▶ 一点一点の稀少性というよりは、コレクションとして集まることにより、出版文化史・書誌学を研究する上で重要な意味を持つてくる資料
- ▶ 図書館が所蔵するには全国的にも珍しいタイプのコレクションだが、古書業界の歴史を伝える資料であり、出版社・古書店等が集積し、出版業・古書販売業を地域産業に持つ千代田区にふさわしい地域資料



古書販売目録コレクション

コレクションの名称	対象となる研究分野	
作成時期	資料形態	点数
①内務省委託本	出版検閲	
大正8年～昭和17年	書籍	2,300
戦前に内務省が行っていた出版検閲に用いられた正本のうち、発禁処分にならなかったもの。検閲官が内容をチェックするために引いた赤線や青線、出版の可否についてのコメントから、当時の検閲業務の実態を読み取ることができる。		
②一橋・駿河台図書館業務資料	図書館史	
大正11年～昭和33年	簿冊	124
	紙焼き・図面等	13
当館の前身である東京市立一橋図書館および駿河台図書館時代の業務資料（日直・宿直日誌、予算差引簿、閲覧料日計簿、図書購入関係綴など）。当時の図書館運営の詳細な様子を読み取ることができる。		
③古書販売目録	書誌学・出版文化史	
明治9年～昭和中期	冊子、一枚もの	9,350
古書店が通信販売を行う際に発行するカタログ。過去の古書販売目録からは、その時点で存在していた古書の概要や価格、書物の流通の手がかり、発行古書店の歴史・出来事などを読み取ることができる。		

利用環境整備の状況

①内務省委託本

冊子体目録	検索	デジタル 画像	電子書籍
あり（資料集に収録）	データベース	一部公開	未



千代田区立図書館

内務省委託本 検索システム

内務省委託本 検索システム

■ 検索

資料タイトル、著編者、出版年、題名キーワード 検索を施す

ト

資料の保管番号 (010~999)

冊 月 日 ~ 冊 月 日

[illegible]

②一橋・駿河台図書館業務資料

千代田図書館所蔵

「一橋・駿河台図書館
業務資料」
関係資料集

— 調査部、目録 —

千代田区立千代田図書館

[illegible]

利用環境整備の状況

③古書販売目録

冊子体目録	検索	デジタル 画像	電子書籍
一部あり (出版社より刊行・販売中)	データベース	一部公開	4点



千代田区立図書館

古書販売目録 検索システム

検索・利用の手引き | 検索100 | 図書館ホームページへ

※検索

タイトル・発行年・キーワード:

発行年 (西暦): 年 ~ 年

内容: ☐ 一般古書 ☐ 古書証 ☐ 洋書 ☐ 縮刷
☐ 綴り物 ☐ 美術品

分類・ボックス番号・資料番号: -

旧蔵所:

新蔵所:

公開有無:

表示オプション: ☐ 内容ポップアップ表示

表示順序: [基本順]

表示件数: 20

検索 リセット

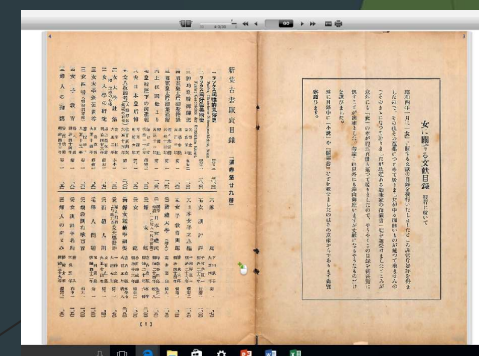
古書販売目録 検索システム

検索・利用の手引き | 検索100 | 図書館ホームページへ

※検索結果

検索結果一覧

区分	冊数	巻数	タイトル・巻数	発行年	年	大分類	内容	備考
書店第1	140	42巻	Maruzen JAPANESE BOOKS No. 554	丸善株式会社	1934.10	A5	洋書	
書店第1	1	42	書店第1巻	丸善株式会社	1934.10	A5	一般古書, 洋書	
書店第1	2	62	書店第2巻	丸善株式会社	1935.10	A5	一般古書, 洋書	
書店第1	2	65	書店第3巻	丸善株式会社	1934.3	A5	一般古書, 洋書	
書店第1	1	10	書店第4巻 No. 55	丸善	1995	B5	縮刷, 美術品	



コレクションの利用環境整備

	冊子体目録	検索	デジタル 画像	電子 書籍
内務省 委託本	あり (資料集に収録)	データベース	一部公開	未
一橋・駿河台 図書館業務資料	あり (資料集に収録)	画像リンク付き目録 をPDFの機能で検索	全資料 全ページ公開	
古書販売目録	一部あり (出版社から刊行 ・販売中)	データベース	一部公開	4点

デジタルでの利用環境

利用環境の整備は済んだが・・・

- ▶ いずれも専門的な資料であり、一般的な区立図書館ユーザーが利用するタイプではないため、デジタル利用環境を整えたとしても、利用に至ることはほぼない
- ▶ そこで千代田図書館は、まず研究者と協働して、コレクションの調査・研究を進めた
- ▶ 次に、その研究成果をわかりやすく加工し一般向け企画展示や講演会を開催し、さらに展示の記録や講演録を作成しデジタルでアーカイブするという形で、段階を踏んだ活用・利用促進を行っている

活用の第一段階（研究者による活用） 研究会

▶ 「内務省委託本」研究会

- 2011年に発足し、これまでに12回開催
- 研究者：6名～

▶ 「一橋・駿河台図書館業務資料」研究会

- 2014年に発足し、これまでに研究会を5回、WGを8回開催
- 研究者：9名



活用の第二段階（一般利用者への発信）

①調査レポート

▶ 内務省委託本調査レポート

- 2011年から発行開始
- 図書館内で配布するほか、公式webサイトにてダウンロード可能
- 総集編の刊行



活用の第二段階（一般利用者への発信）

②企画展示



- ▶ 検閲の基準展（2012）
- ▶ 古書目録のココが好き！（2014）
- ▶ 関東大震災前後の東京市立図書館（2015）

ほか

大型企画展示は10年間で計8回開催

ミニ展示は計10回開催

活用の第二段階（一般利用者への発信）

③講演会



- ▶ 東京市立図書館をつくった図書館員
（奥泉和久氏、2016）
 - ▶ 古書販売目録の学問的な意義
（尾上陽介氏、2016）
- ほか 計21回開催

活用の第二段階（一般利用者への発信）

「検閲官」展の事例（2017）



▶ 内務省委託本

- パネル17枚
- ケース展示資料43点
- 関連書籍173点
- デジタル資料14点
- 講演会参加者156人
(2回合計)

▶ 展示の効果

- 会場アンケート146枚回収
- 持ち帰られた配布物
6500部（20種合計）
- 新聞等への掲載8回

デジタル資料としての活用

①webサイトにて代表的な資料紹介

リンクをつなぎ、ワンストップで気軽に資料データにアクセス

①資料紹介

➡②書誌

➡③画像



①資料紹介

➡②レポート

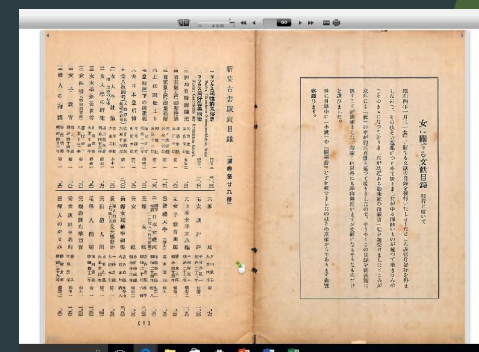
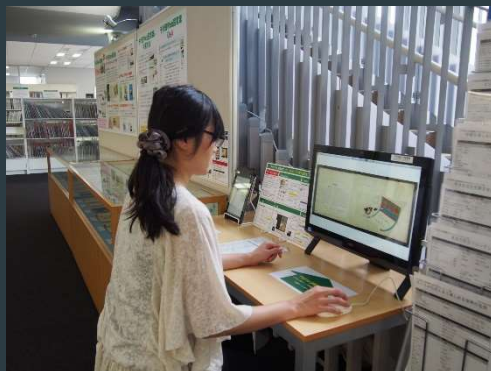
パンフレット



デジタル資料としての活用

②展示会場に設置したPCやタブレット端末でのデジタル化資料の閲覧

パネルやケースでは特定のページしか閲覧できないが、
デジタル化資料なら全体を閲覧することができる
→web公開されているものは、サイトアドレス等を記載したペーパーも配布



デジタル資料としての活用

③関連発行物のPDFをweb公開

- ▶パンフレット
- ▶レポート
- ▶展示記録アーカイブ
- ▶過去の企画展や講演会記録



現状の整理（4つのステージ）

ステージ		DAとの 関連
1	利用環境整備	○
2	研究者による活用（活用の第一段階）	—
3	一般利用者への発信（活用の第二段階）	○
4	活用成果のデジタルアーカイブ	◎

この10年間、アナログとデジタルでの活用を混合して進めてきたが、**現在はまだまだアナログベースでの活用が多い**

今後の課題

- ▶ ステージ3（一般利用者への発信） & ステージ4（活用成果のデジタルアーカイブ化）において、デジタルならではの効果的な活用方法のバリエーションを増やす
- ▶ デジタルアーカイブの利用実績を計測するツールの機能向上

おわりに

- ▶ 利用環境整備が済んだ後、アーカイブを維持していくには、活用・利用の実績が必要なのは、デジタルでもアナログでも同じ
- ▶ 一般利用者が利用しにくいタイプの資料なら、まずは研究者による活用から
(活用を2段階で)
- ▶ デジタルと馴染みが薄いテーマの場合は、まずはアナログベースでの活用から